

巻頭言

不易流行

—新年を迎えて—

辻 靖 三



新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のお祝いを申し上げます。いつの年でも、新年にはこの一年がどのように展開するのかと、気の引き締まるものです。

現下の経済のデフレスパイラルは、国内の社会の様々な面においても、考え・行動のマインドでのデフレスパイラル現象に広がっており、この切り替えができるかが、今年の最大の課題で、新しい強固なリーダーシップ体制に期待するところです。

長い歴史の中で培ってきた日本人の良きところは他国民からも評価されているもので、それはアイデンティティとして大事にし、今後世界の中で競っていく部分は思い切って変えていくことが必要です。「不易流行」です。

建設事業は地球上の、ある「場」において実施するものであり、それぞれの場が持つ様々な条件下で、所定の建造物を造り上げる仕事であります。場に構築するに最適なプロセスで取り組み、様々な技術が駆使されベストな成果となるべく、腕を振るえる分野です。経験と技術によるエンジニアリング力、判断力を要する建設のプロとしての働き場です。

建設事業のもう一つの特徴は、造り上げる建造物は必ず事業者がいて、事業者の求める建造物を契約によって建設事業が発生することです。事業者と建設者でもって、建設事業は成り立つものです。事業者が建造物を必要とし、具体化しないと建設者は出番がないのです。事業者は公であれ、民であれ、生活活動・生産活動・安全活動のために、資金を投入する行為を、社会的に、経営的にプロセスを経て実現出来る環境を作るのが仕事です。

建設事業は、事業者側が需要を生み出し、建設者がそれを建設するので、事業者が需要を生み出すのが、スタートです。建設事業の事業者は、土木事業は官が主体で、建築事業は民が主体です。公共事業は土木主体ですので、事業者である公が需要を生み出さなければ、建設者の出番になりません。公共事業の昨今は殆どの

事業で、公の財源の制約から整備水準の充足感が喧伝され需要のデフレ状態と見られてきています。そのためか、公の事業者側の経営資源投入が、新規の必要な需要を把握し具体化する分野より、言わば在庫である現計画の実施に手を取られて需要の消化が進んでいます。このまま在庫が完成していくと、公の事業者から民の建設者に繋ぐ、次の具体的な需要が枯渇状態になります。

建設界が世の中で継続的に確固たる場と役割を占めていくには、事業者と建設者の協調した活動が両輪です。建設者の役割である建設力は世界一流です。事業者側の事業創出力は、災害関連以外は残念ながら停滞状態です。事業者側はここ数年来、前記の喧伝から建設の全体の流れの中の一段階の契約関連の対応に貴重な経営資源を獲られ、事業創出面に手が回らない状況の感です。いずれ枯渇し、共倒れになります。

公共事業プロセスの最上流である事業創出は、事業者側に殆ど負っているのが、今後の最大の課題です。これまでの事業者である公は、社会的な推進もあり、体制も整っていて事業創出も順調だったが、昨今の逆風下では事業創出には従来の何倍もの知恵と力とを注入しないと実現困難です。公の体制も以前より、人員数等かなりの弱体状況下ではありますが、従来通りの仕事を大胆に切り替えて事業創出に重心を移すことに、建設界全体の将来の活性化度が懸かっている気がします。

大局的に、限られた数の事業者側のマンパワーを建設の最上流分野に傾注したり、民からも加わるようにすべきで、そのため事業者側の体制も思い切った「不易流行」をして、建設のデフレスパイラルを脱し、持続的発展を目指さないといけない段階であると思います。国の体制が変化するであろう新年を迎え、国内には数多くの決めていくべき問題がありますが、建設界の問題もその一つであると痛感します。